

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2022年11月1日 230号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



## 活躍するチャパボラ

水揚げした養殖パクーの内臓を処理する作業。9月24日

### 第一期チャパボラ、発進しました！

チャパボラとは、チャコ・パンタナール・ボランティアのことです。これまで積み重ねてきた、青年たちによる奉仕活動の実績から得られた知見を踏まえ、参加者の心豊かな成長と、レダプロジェクトの活動計画に、より即した戦力となることを目指し、本年から新たな名称を付けてスタートしました。未来人材の育成という目標は従来より一貫しています。チャパボラは、レダにおいて8〜9か月の期間、奉仕活動をすることを基本とします。第一期チャパボラ隊は、第1陣4名が7月初旬に、第2陣5名が8月下旬に日本を発ってレダに入りました。10月末には、第二期の4名が発発することになっています。チャパボラがレダに到着すると、まず2〜3週間の研修期間があります。養殖(パクー・エビ)、養豚、農業、内務(修繕他を含む)を実地で体験します。さらに釣りを実践し、その後に責任者による面接を経て担当部署が決まり、本格的な活動に入ります。

第一期1陣の4名は、本紙先月号に写真を少し掲載しましたが、現在すでに各部署で本腰を入れて活躍しています。総じて言えば、地味で労力を要する作業を黙々とこなしていく、開拓者のような頼もしい姿が見られます。彼らはすでに、レダにないならぬ要員になっていると言えるでしょう。

第一期2陣の5名は、現在(10月14日)、研修期間中ですが、まもなく釣りの実践に移行します。総じていえば、明朗で声が大きく、何か新しいものを生み出しそうな生気を発散し、今後が楽しみです。

チャパボラ以外に、5名の青年もレダで活動中です。うち2名は日系米国青年。良い視点から具体的な意見を言います。別の2名はレダで数か月活躍してきた、ほぼベテランのボランティア。また川久保さんはレダのスタッフで、労務管理者および養殖チームのリーダーとして、所長を強力に補佐しています。

そして近日中に、パクー養殖責任者の滝川さんもレダに戻ってきます。また言うまでもないことですが、シニアもその心は若者のように燃えています。青年たちの成長のために、良き肥やしになるでしょう。

レダには若者の力が漲っていることを、読者の皆様、お感じになってください。そのため、本紙に加え、FacebookやLINEなどにも慣れ、写真や動画を見て、新鮮な情報に触れていただけたらと思います。





大きいパクーだけを水揚げ。9月24日



養殖池のパクーを追い込む。9月24日



レダ基地スナッフ

貨物船から荷役：1袋30～50kg。9月19日



最終洗浄。直後に急速冷凍庫へ。9月24日



内臓を除去後、内部を洗う。9月24日



パクーをその場で締める。9月24日



レティロ養豚場で楽しい昼食。10月7日



完成した豚舎の屋根の上より。10月7日



青年と水落氏が豚舎に櫓を設置。10月3日



カルメロ・ペラルタ市でパクー販売。10月8日



ポットに杉の種を播きました。10月7日



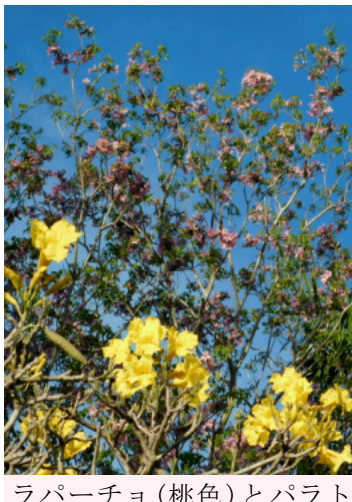
埋めたマンディオカの挿し穂から発芽。9月23日



10月2日  
キョン君が釣ったマングルジャー



10月1日  
水落氏が釣った淡水エイは60kg。



ラパーチョ (桃色) とパラド (黄) の花。10月7日



ブーゲンビリア (赤紫) とニコチアナ (白) の花。9月18日



# 持続可能な福地建設をめざして15

## 陸の豊かさも守ろう

和田賢一



言えましょう。

ゴール15がめざす目標は、次の通りです。

「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様性の損失を阻止する」

一言でいえば、陸上の自然の保全・回復をめざして、自然の恩恵の中で生存するすべての生物の生存に力を注ぐということになるでしょうか。SDG 15で指摘するのは、それだけの理由があるのです。

地球の表面積のうち約71%が海で、約29%が陸です。陸地面積の31%を占める40億ヘクタールの森林のうち、毎年520万ヘクタールが失われていると言われています。その原因は伐採（違法伐採を含む）、焼失や砂漠化、また水没というものです。

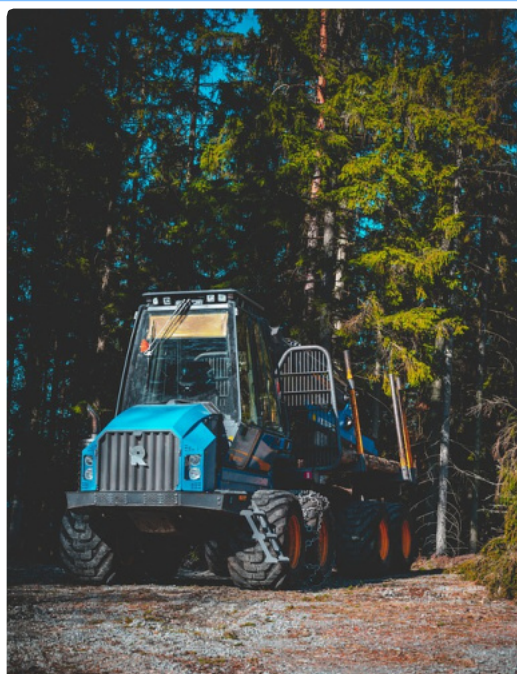
さらに、この広大な森林には175万種の生物が生息しており、まだ見ない生物を含めると3000万種の生物がいると言われています。1975年の観測当時、年間絶滅数は1000種。今まで4万種の生物が絶滅したとのデータがあります。学者の中には、「1日あたり109種がなくなっている」との指摘をする方もいます。

これらの数字を見る限り、私たちの大事なこの地球は病んでいるのです。これらの指摘に対してSDG 15は、9つのターゲットに分類されています。農林水産省刊の「17の目標と世界産業のつながり」によると、次の4つの課題に集約して取り組むとしています。

- 1 森林破壊
- 2 陸上生態系の崩壊
- 3 砂漠化
- 4 土壌劣化

海を取り巻く環境の悪化よりも深刻なのが、陸の環境の変化です。というのも、私たちが陸から受けている「恩恵」はより直接的な影響を受けているからです。食生活から始まって、住宅環境もエネルギーでは、森林破壊を例にとつて、話を進めましょう。

森林破壊が進むと、伝染病を媒介する生物が増加し、デング熱、マラリア、黄熱病などの危険地域が広がる。2005年以降、アメリカ東北部で見られるようになったライム病も森林伐採が発端であるとされています。ライム病を媒介するシロアシネズミの外敵が森林破壊で減少し、増殖したシロアシネズミ



森林伐採は植林を伴うことが不可欠である。

ミのウイルスがマダニに感染して、そのマダニに噛まれた人がライム病に感染したというのです。

森林を伐採した土地に畑を作れば、食糧生産は増加すると考えられがちですが、長期的視点ではむしろ悪化を招くとの指摘が最近では主流になっています。アフリカなどでは、森林を伐採して畑を作り、作物を生産しても、食糧不足の慢性化から、畑の休耕期間が短縮する結果、土壌の復元力が乏しくなるため、耕作面積あたりの生産量が低下し、それが新たな森林伐採をしなければならなくなるという「負の連鎖」を生むというのです。

森林伐採は前述した森林伐採や焼き畑農法によるものの他に、住宅建材のための商業伐採、農地や牧

畜の拡大のための伐採も指摘の対象となっています。森林破壊と密接に関連するのが地球温暖化や気候変動です。これらはSDG 13の中でも詳細に論じてきましたので、ここでは割愛いたします。

ここまです、海外の森林伐採について述べてきましたが、わが国の実情はどのようなものでしょうか。

日本の森林の面積は国土の約67%に相当する約2500万ヘクタールです。OECD加盟国の中ではフィンランドに次ぐ2番目の森林率（国土に占める森林面積の割合）の高い森林大国と言えるでしょう。

林野庁によると、わが国の森林の面積はここ50年以上2500万ヘクタールと横ばい状況です。では問題がないと言えるかと言えば、そうではありません。建築用木材を安価な輸入材に頼ってきたがゆえに、国産の建材が無視され、結果として林業が立ち行かなくなり、経営者の高齢化、後継者不足に陥っています。そのために森林の荒廃が進み、土砂流出防止、水源の涵養など、森林の持つさまざまな機能がそこなわれています。

ゆえに、緩やかではありますが森林破壊状態があり、当然ながら地球温暖化や気候変動、生態系の破壊、土壌の劣化などが進んでいると言えるでしょう。

では、著しい森林伐採をどう食い止めることができるのでしょうか。世界的規模や国家間での取り組みは、国連食糧農業機関（FAO）、国際熱帯木材機関（ITTO）、アジア森林パートナーシップ（AFP）などで森林の保護、有効的な使い方、違法伐採の監視などがなされています。

では、「私は何をすればいいのでしょうか？」森林保護に関わる諸機関が共通して提言しているのは「植林」です。個人的に木を植えることもさることながら、さまざまな機関や団体が行っている植林活動に積極的に関わってもらいたいというのです。

個々人が、国産建材の利用、古紙回収への協力、リサイクル活動への賛意を表し、努力をするなど、さまざまなことはいうまでもありません。日常の積み重ねが、地球の森林を守ることになるでしょう。

（環境省、農林水産省、林野庁、アピステコラムなどの資料参照（つづく）



**レダの星空** レダは星がきれいです。パンタナールという大湿地帯にありながら、空気が乾燥している

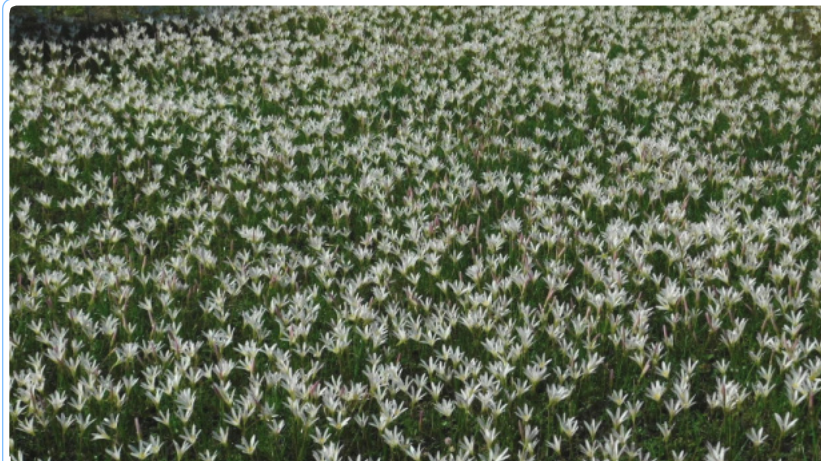


上に、都会の夜のような人工の照明がレダの周辺に何百キロにもわたって、ほとんどないからです。

右の写真は、ヨンジさんが10月2日、午前0時頃、研修所の上から東方の空を撮影したものです。地平の彼方からオリオン座が昇ってきました。冬の大三角形と共に昇り続け、午前6時頃、天頂に至ります。夕食後に大空を見上げると、天の川が壮観です。天頂付近に大きく陣取るのは、射手座とさそり座。射手座は北斗七星によく似た南斗六星を目印に容易に見つけることができます。さそり座の心臓、赤い星のアンタレスは、地球まで550光年、室町八代将軍足利義政が朝鮮に使節を派遣した頃の輝きです。

**タマスダレ(玉簾)**

去る9月末、レダに雨季の到来を告げる大雨が降りました。そして10月1日、プール場の周辺でタマスダレが一斉に開花しました。ざっと見て数千株はあり、これまた美しく、壮観です。



当地のタマスダレは原種で、日本で見える園芸品種よりも、花弁がほっそりとして、清楚な印象を受けます。タマスダレは、まとまった雨が降ると開花することから、英語ではレインリリー(雨ゆり)とも呼ばれます。一日花で、翌日以降はみな閉じてしまいました。

タマスダレは、ヒガンバナ科の球根草です。レダでは自生状態のまま放置されていますが、種子で増殖したか、分球して増えたのか、よく繁栄しています。花言葉…「清純の愛」「期待」

## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

## 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット(印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

## レダ・プロジェクト紹介 用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>